

福富町における海苔養殖協業の実態と 女性の役割について

福富町漁協婦人部

部長 津田トシ子

1. 地域と漁業の概要

私たちが所属する福富町漁協は、有明海の最も湾奥部、六角川の河口に位置し、正組合員102名、准組合員40名の142名で構成され、主幹漁業である海苔養殖業の他、網漁業、潜水漁業が行われています。海苔養殖業48名の中で、農業との兼業は40戸、専業漁家は8戸となっています。

福富町は古くから干拓事業が行われており、有明海を目の前にする白石平野では、米、麦、大豆、玉ねぎ、レンコン、いちごなどの農業も盛んで、組合員は漁業と農業を兼業するケースが多いようですが、収入の面からみれば、海苔養殖のウエイトが高くなっています。

2. 組織と運営

福富町漁協婦人部は昭和38年に設立され、現在の部員数47名、部長1名、副部長2名、班長12名で構成されています。

主な活動としては、婦人部総会、年5～6回の班長会、生活基盤の安定を図るための貯蓄推進、税務記帳講習会、海苔消費拡大運動として御中元、御歳暮商品のとりまとめや製品向上講習会、環境美化運動として年5回の海岸及び浜清掃を行っています。

3. 活動課題選定の動機

これまで佐賀のりは、恵まれた海況と生産者の努力により、上級品を中心として非常に高い評価を得てきました。しかし、最近、ギフト分野でののり消費量の伸び悩みとともに、業務用など中・下級品の需要拡大に伴い、佐賀のりの平均単価は低迷を続けています。

また、平成5年度から導入された活性処理作業は、これまで以上の厳しい労働として、私たちの体にのしかかってきました。さらに、近年の漁業集落内の非漁家の増加により、夜間の製造作業に伴う騒音、排水処理等、環境問題のトラブルも発生して大きな社会問題となっています。

漁業者の高齢化や後継者不足といった深刻な状況の中、今後、海苔養殖を安定かつ永続的に続けていくためには、環境問題への対応、生産コストを下げ、労働力の軽減を図ることが早急の課題となっていました。

福富町漁協においても、こうした種々の困難な課題を解決する手段として協業化の検討を続けてきた結果、平成7年度に1協業体(5世帯)、8年度に3協業体(それぞれ5、6、4世帯)、合計20世帯が協業化し、協業化への参加は海苔養殖業48世帯のうちの41.7%となりました。

私たちの東雲水産は、県内で最も早く、平成7年度に5世帯で海上、陸上の全面協業化に移行しました。

しかし、協業を始めてまだ日が浅く、試行錯誤を繰り返しながら運営している部分が多いため、協業に参加している人の意見を聞き、今後の取組みや改善に役立てていきたいとこのテーマを選びました。

4. 活動状況及び成果

私たちは、この発表を行うにあたり、女性の立場からみた協業化についてのアンケート調査を行いました。

その方法としては、すでに協業にふみきられている方はその実態等を、また、協業されていない方には、協業に対する考え方等を書いていただくことにしました。

では、その結果をご紹介します。

まず、協業されていない方の意見を集約すると、

(1) 海苔の価格低迷が続く中で、これから先は協業に参加して経費を節約していかなければならないことはわかっているが、農業と兼業している関係上、どうしてもふみきることができない。

(2) 協業することにより、いろいろな問題が出てくるのではないか。特に、協業体内部の人間関係が気になる。

(3) 協業体内部でのストレスを解消するため、家庭内においてもしっかりと協力体制が必要ではないかと思う。

(4) 自分たちは後継者がいないので、協業へ参加することを断念しているが、もっと多くの人に協業に参加してもらって、海苔養殖を続けてもらいたい。

次に、すでに協業されている方の意見を集約すると以下ようになりました。

まず、協業して良かった点は、

(1) 個人経営の時は、朝は早く起きて沖へ仕事に行き、帰ってからは乾燥が済むまでは、どんなに体がきつくても眠くても海苔の製造作業から離れることができなかった。その上、夫がいない時は乾燥機の取扱いや温度調整に、また、原藻がなくなる寸前などは神経をすり減らし、体力的にも精神的にもまいってしまうことがあった。

しかし、協業化により、ほとんどの作業が分業化、集団化されたため、仕事の能率が上がり作業時間が短縮された。その結果、心身ともにゆとりをもつことができた。また、海上での支柱竹の補修や海苔網の手入れなどは、男性だけで行うようになったので、女性の海上作業は少なくなり、海苔製造の準備作業等、陸上作業に専念することができた。

(2) 学校や町の行事への参加については、個人経営の時は自分の時間がとれず、ほとんど参加できなかった。参加するにしても、仕事の段取りを調整しなければならなかった。町民体育大会や学校行事は、海苔養殖の一番大切な時期と重なり、行けないことが多かった。

協業体では、原藻の摘採担当と製造担当者が入れ替わる作業体制に従って仕事をしているので、自分勝手なことはできないが、各自有給休暇があるので、責任者の方と相談しながら、都合をつけて行事に参加できるようになった。都合がつかない場合でも、協業体の他のメンバーに自分の埋め合わせをしてもらい、参加できた。さらに父母の協力がある場合は、夫婦揃って参加できるという、今までなかったことができた。

(3) 作業の分業化、集団化と海苔製造機械が大型化されたことにより、労働時間の短縮が図られた。その結果、十分に睡眠と休息の時間がとれるようになったことは何より良かった。海苔漁期中も家事や子供の世話に十分な時間がとれるようになったことも、主婦としてはありがたい。

といった意見が出されました。

反対に、協業をしてやりにくくなった点では、

(1) 体の調子が悪い時でも、無理をしてでも仕事に出なければならないことがある。無理を押して仕事に出ても、作業体制などうまくいかないことがある。協業体の他の人たちに迷惑をかけることになる。

(2) 今まででは誰にも気兼ねすることなく、自分の都合で仕事を中断して行事に参加できたが、それができなくなった。

という意見がありました。協業化したことにより、協業体内部の他のメンバーに気兼ねしなければならなくなったということです。このことは、男性よりも女性の方が強く感じているようです。女性は、協業体内部でのコミュニケーションを図る必要があると思います。

以上のアンケート結果により、協業をして良かったか悪かったかということについては、大半の人が協業をして良かったとしています。

しかし、同じような労働条件であっても、その人の受け取り方次第では、プラスにもマイナスにもなることがこのアンケート結果から読みとれます。協業化は、それだけに人間関係の難しさがあるかともいえます。

アンケート以外に、私たちは協業に対する婦人部の生の声を聞こうと、協業化にふみきった人、そうでない人を集め、フリートーク方式で話し合いました。

この話し合いの中で、いろいろな角度から意見が出ました。

協業化にふみきった人たちからは、協業を始めてまだ1～2年目で、まだお互いの信頼関係が十分でなく、人間関係がぎくしゃくしているため、労働への負担感が強いのか、逆に労働や経営が苦しいから、また、生産がうまくいかな^かつ^たから人間関係がうまくいかな^かないのか、はっきりした答えは出ませんでした。

しかし、ある協業体では、期間中楽しく仕事ができ、次の世代に継がせてよい、といった意見も出ていることから、ひとつのことがうまくいけば、他の面もどんどんよくなる可能性もあるような気がします。

一方、個人経営の婦人部の中でも、住宅密集地でしている人から、個人経営では24時間製造作業をしたくても、騒音等で迷惑がかかるので、朝になってからしか機械を動かせない^いので、雇用を入れないと作業がはかどらず、人件費の支払いだけでも苦しいといった意見が出て、協業のメリットばかりを指摘されていました。

では、ここで、協業体における1日の作業工程を追ってみたいと思います。ただ、注意しなければならないことは、協業体における女性の労働時間は、それぞれの家族構成が違うように、4協業体においてかならずしも同一という訳ではないということです。

父母等が元気で労働力が十分なグループと、夫婦2人のみで参加し、足りない労働力を外に求めなければならないグループとがあるということを理解してください。

海上作業は摘採に3時間、それから家に帰ってしばらく休み、活性処理に3～4時間かかります。海苔の製造が深夜や早朝に及ぶような時、夕方5時以降は、海上担当の女性も交替で選別作業に参加します。

製造作業はグループにより作業体制が異なりますが、1週間単位でローテーションを行っているところでは、通常は夫婦1組と昼間の外部雇用でまかない、2日ごとのローテーションを行っているところでは、労働力に余裕があることから2組の夫婦で製造を担当しています。海苔製造時間は1日平均14時間ですから、10時間の自由時間があることになります。

しかし、病害が出た時や入札前で24時間製造を続ける場合は、早朝まで製造作業を続けた後、すぐ摘採に出かけることもあります。また、製造担当者が場合によっては24時間作業を続けることもあります。

ここで家族労働に余裕があれば、24時間作業の中で父母の助けを借りることもできますから、仕事は相当楽になります。しかし、労働力に余裕のない協業体で製造担当となった人は、個人経営でも経験のなかった24時間作業を続けなければなりません。シーズンをとおしてみた場合の労働力は楽になっても、時期によっては24時間体制で製造をしなければならないことがあります。このような時の労働負担は相当なもので、今後は作業体制の仕組みを変え、24時間連続した製造にならないような摘採計画をみんなで話し合っていく必要があります。こうした運営方法の改善が、良好な人間関係のポイントとなっていくのではないかと思います。

5. 今後の課題

本日の発表ではふれませんでした。経営収支の問題に対しても、これから婦人部として大いに関心と責任を持って、取り組まなければならないと考えています。

協業化によって、たしかに経費は少なくなるのですが、まだ実感として利益が増えたような気がしません。それは、まだまだ協業体の経営の中に、個人の経営感覚がもちこまれているためではないでしょうか。

協業体ではこれまでの個人経営の時とは異なり、水揚げ額を自分の思いどおりには使えないといった辛さがあります。今まで経験したことがない「決められたお金で生活を維持する」習慣も必要になってきます。

こうした点では、婦人部は協業の経営と個人の経営の両面の経営を把握していく必要があるともいえます。私たちは海苔養殖を続けることで、最終的には借金を減らし、手元に残るお金を増やしていくため、私たちは協業化にふみきったのですから、より効率的な経営や作業方法の改善によって、当初の目標達成のため全員で話し合いを積み重ねていかななくてはなりません。後戻りすることは、前に進むことより難しいのです。

最後に、協業体においては常に相手の立場で考え、常に感謝の気持ちをもつことができれば、必ず成功すると確信しています。私たちは、今後とも各方面の方たちの意見を仰ぎ、グループでの話し合いを重ねながら、経営改善に取り組んでいきたいと思っています。

〈表1〉

《のり養殖協業体一覧表》

平成7年度				平成8年度				平成9年度				千代田町
漁協名		漁家数	行使柵数	漁協名		漁家数	行使柵数	漁協名		漁家数	行使柵数	2グループ 8漁家
芦刈	A	5	1,100	広江	A	4	1,200	千代田町	A	4	1,200	大詫間
福富町	A	5	1,100	芦刈	B	5	1,050	"	B	4	1,200	1グループ 4漁家
				"	C	6	1,200	大詫間	A	4	1,370	広江
				福富町	B	5	1,150	東与賀町	A	4	1,200	1グループ 4漁家
				"	C	6	1,450	"	B	4	1,200	東与賀町
				"	D	4	960	"	C	4	1,200	4グループ 16漁家
				新有明	A	10	2,500	"	D	4	1,200	久保田町
				鹿島市	A	5	1,000	久保田町	A	5	1,400	1グループ 5漁家
								白石町北明	A	6	1,360	芦刈
								新有明	B	5	1,350	3グループ 16漁家
								"	C	5	1,350	福富町
								"	D	5	1,350	4グループ 20漁家
合計	2グループ	10		8グループ		45		12グループ		54		新有明
平成9年度 有明地区漁協数 18漁協												4グループ 25漁家
のり養殖行使者数 1,439												白石町北明
												1グループ 6漁家
												鹿島市
												1グループ 5漁家
												合計
												22グループ 109漁家

〈表3〉 平成7年度協業体成果表

	項 目	福 富 町 漁 協	
		東 雲 水 産	個 人 標 準
生 産 制	構 成 世 帯	5	1
	常 時 労 働 力	男5、女5	男1、女1
經 営 面	1世帯当り 経営規模(指数)	100	100
	生産枚数(指数)	119	100
	生産金額(指数)	102	100
	単 価(指数)	8.75(円)	10.13(円)
	生産コスト	6.35円/枚	9.39円/枚
	(うち減価償却費)	(3.79円/枚)	(5.31円/枚)
	粗 利 益 率	27.4%	7.4%
労 働 面	1世帯当り延べ労働時間 (指数)	2,206時間 73	3,013時間 100
	1世帯1日平均労働時間 (指数)	11.5時間 73	15.8時間 100
	最盛期1日当り労働時間 (海上、陸上)	海上 8時間 陸上 19時間	20時間
環 境 面	協業化により、のり漁家の集落以外への集約を図り、排水、騒音等、環境問題についても解決することができた。		